

にいがた防災交流プラットフォーム 記念セッション・話題提供



上 村 靖 司

(長岡技術科学大学・雪氷工学研究室／地域防災実践研究センター)



にいがた防災交流プラットフォーム

「ゆるやかな連携から、ともに取り組む関係へ」

幹事への宿題

- ① 自身の活動や取組の紹介
- ② 防災分野において多様な主体が連携する意義
- ③ ぼうさいこくたいや設置準備会を通じて感じたこと
- ④ にいがた防災交流プラットフォームに期待する役割やこれを通じて生まれると望ましい連携・活動



活動や取組の紹介

長岡技大・地域防災実践研究センター

No	出展件名	主催団体 ／協力団体	責任者	出展方法
1	雪と倒木のデータプラットフォーム	DPF協議会	三浦	ポスター展示
2	防災ワクチン 一枚の写真WS	NUT地域防災実践研究C ／中越防災安全推進機構	上村	ワークショップ
3	電動アシスト 運搬車	NUTメカトロニクス研究室 ／地域防災実践研究C	宮崎	屋外展示
4	ブレーカーキット &ガスメーター	NUT地域防災実践研究C／東京ガスNW、 北陸ガス、東電HD	吉澤	屋外展示
5	雪風君BIG	NUT雪氷工学研究室 ／(株)SnowBiz	上村	屋外展示
6	新型コンセント	NUT地域防災実践研究C、先進エネルギー 変換研究室	日下	ブース展示



活動や取組の紹介

雪氷工学研究室／上村

No	出展件名	主催団体 ／協力団体	出展方法
1	雪かき道場／YUBO	NPO中越防災フロンティア	ブース展示
2	新潟が先導する「命を守る雪の防災」	日本雪工学会	セッション

セッション登壇

1	中越地震から復興した新潟が次世代へ伝えたい教訓	新潟県	セッション
2	新潟県中越地震の教訓と備えの重要性	日本損害保険協会	セッション
3	中越地震から学ぶ 能登の復興と震災伝承	日本防災士機構	セッション



ぼうさいこくたい2025 第1回連携会議にて

- ▶ 様々な災害を経験し、向き合ってきた新潟県から「**血の通った防災と復興**」を発信する契機としたい。

多様な主体が連携する意義

- ▶ 中越復興市民会議・復興デザイン研究会（中越地震後に発足）
- ▶ 2007～2008年「地域復興交流会議」の経験
- ▶ 2007～2011年「地域復興デザイン策定」発表会の経験



中越復興市民会議
平成18年度総会

市民会議
平成18年度総会

復興デザイン
研究会 発足

中越復興市民会議
平成18年度総会



地域復興交流会議

▶ 地域復興交流会議とは

- 新潟県中越大震災の被災地において、**復興支援団体や地域住民**が一堂に会し、**情報交換やネットワークづくり**を行うための会議。

▶ 主な目的や特徴は以下の通りです

- 情報交換：復興に向けた取り組みや地域の課題について話し合う。
- ネットワークづくり：支援団体同士や集落間のつながりを強める。
- 主体的な地域づくり：地域や人を主語にした支援や新しい活動の後押し。

▶ 開催実績

- 2007年2月 長岡市・蓬平温泉 福引屋
- 2007年9月 川口町（現長岡市）・交流体験館「杜のかたらい」
- 2008年3月 魚沼市・湯之谷温泉郷 折立温泉ゆのたに荘



「地域復興デザイン策定」発表会

新潟県中越大震災復興基金 地域復興支援事業

▶ 事業の目的

- 中越大震災で被災した地域の自立的復興のため、地域特性を活かした復興プラン策定に取り組む集落や地域団体等に対して、コンサルタント等の導入によるプランのイメージングを支援し、住民起業や地域連携への動きを加速させる。

▶ 補助対象者

- 地域コミュニティの復興熟度が高く、かつ市町村と協働で地域復興に取り組み、市町村長が推薦する集落及び地域団体等。事業開始は2007(H19)年4月。

▶ 発表会の開催

- 事前、中間、最終の3回。補助対象者が一同に介して発表。意見交換。
- 有識者による復興熟度評価とフィードバック。



「地域復興デザイン策定」発表会



上村 靖司（長岡技術科学大学・雪氷工学研究室／地域防災実践研究センター）



中越大地震・中越沖地震からの復興

復興に立ち向かう人。
支援に立ち上がる人。
震災からの復興をきっかけに、
いつもの新たな絆が生まれた。
人と人、笑顔と笑顔がつながっていく。

写真提供：中越防災安全推進機構、中越復興市民会議

ご清聴ありがとうございました

上村靖司（長岡技術科学大学）